

第12回市立中学校のあり方検討委員会 会議録（概要）

- 1 日時 令和5年9月25日（月）午後7時00分～午後8時40分
- 2 会場 千手中央コミュニティセンター 千年の森ホール
- 3 出席者
 - (1) 委員 20名
 - (2) 事務局 6名 渡辺教育長、鈴木教育文化部長、玉村教育総務課長、細木学校教育課長、藤田指導管理主事、山岸教育総務課長補佐

4 会議概要

- (1) 開会あいさつ（雲尾委員長）
- (2) 議事

以下のとおり審議が行われた。

発言者	発言概要
① 検討委員会の会議日程及び内容等について（令和5年9月25日現在）	
事務局	（資料に基づき説明） （質問等なし）
② 将来人口推計、生徒数推計について	
事務局	（資料に基づき説明）
委員	生徒数推計についての感想だが、市内から津南中等教育学校に毎年30名ほど行っている影響は大きい。生徒数推計資料で特に驚いたのは2035年に中学生が全員で521人、1年生だけだとわずか150人というところである。今の再編計画は9校を4校にという話だが、これは非常に厳しいのかなと思った。 参考に中学校の複式学級の基準をお聞きしたい。
委員	小学校は2つの学年が16人いないと複式となるが、中学校は8人で複式学級になる。2つの学年に9人以上いればそれぞれ別の単式の学級となる。
③ 通学距離・通学方法の考え方について	
事務局	（資料に基づき説明）
委員	今現在これだけスクールバス、あるいは路線バスや市営バスが走っているが、人員不足が相当叫ばれている中で、これ以上スクールバスを同じ時間帯に走らせることが果たして可能なのか疑問がある。通学で片道1時間以内と言っているが、移動にそれだけの時間を使うことは、子供の貴重な時間を失うということで、少し残念なことだと感じる。 先ほどの人口推計にもあったが、やるなら本当に大胆なやり方で合併をするべきなのか、あるいは今みたいな少数でのやり方をもう少し模索するのかという辺りを今後ぜひ考えてもらえないかなと考えている。

歩くことで心身が鍛えられ、足の裏から刺激を受けて脳が活性化するというようなことを聞いたことがあり、スクールバス、そして学校の統合、そういったことをトータル的に考えないと統合は成り立たないと感じる。スクールバスの利用で、もし事例があったら教えてほしい。

委員長

スクールバスはどの地域でも利用されているが、学校が統廃合された場合、特に小学校の場合だと、旧小学校までは徒歩で、そこがスクールバスの発着地点になり、そこからまとめて乗せていくようだ。細かく拾うような形ではなく、歩くということを確保する、それから安全な情報を確保する、ある意味運転手の疲労も少なくするといったような形で取り組んでいるところがある。そういう意味でいうとバスの発着地点をどう考えるかで運動面も含めての解消にはなるかと思う。

おおむね1時間の4キロ、6キロという範囲は、市町村の昭和の大合併の頃に学校統廃合を進めるような動きがあり、文部省がこの基準以内のところは統合したほうが良いという感じで進めていた経緯がある。だが、この大合併での統廃合であつれきが生じたことがあり、その場合この基準が逆に無理な統廃合はしないでというメッセージになっていったところがある。

1つの基準が同じ基準であるが、最初は統合を進める基準で、今はあまり無理はしないでという基準になっているというところである。だから、これが科学的にどうかという根拠は特になく、おおむね1時間という範囲で表現されているだけである。また、特殊な事情であるが、東日本大震災の後、高校のサテライトスクールができたときには原発の辺りを避けて通るようなこともあり、大体2時間ぐらいスクールバスで費やしていた高校生もいたという状況もある。これは相当疲弊していたので、それを決して進めるわけではないが、そういった事例もあった。

事務局

市内では今ほど委員おっしゃったように、交通業者などで運転手不足により廃線になっているところもあり、そこは市営バス化をしているところである。市営バスとスクールバスは運行形態が似ており、1つには地域のNPOを立ち上げて、そのNPOが運行するもの。もう1つは、地域の皆さんを中心にしてその発着点から学校までの間、主に発着点の地域で運行組合をつくって運行する形がある。スクールバスに限定すれば2種免許を必要とせず、ある一定の講習を受けることによって運転手になれるということもあり、NPOと地域の皆さんと一緒に学校の通学を何とか保っているという事例もある。

委員

このスクールバス路線図を見ると、中里地域と水沢地域の半径6kmの円が重なっている場所多くある。実際人口の減少を比べてみると中里のほうが水沢よりは少ないが、再編を考える際は児童生徒数を優先するのか、それとも通学距離を優先するのか。

中里中学校が水沢中学校に統合というのが最初の再編案であるが、中里はこの地図に入り切っていない集落がある。水沢地区の子どもたちが例えば中里側の中学校に統合の場合はさほどバスであれば通学時間は変わらないのかなと思うが、実際中里地域の端の集落の子どもたちは今ですら経由しながら来ると1時間近くかかっている中で、それが水沢に寄るとなるとさらに負担が大きくなると思う。人口的には中里のほうが小さいが、どちらのほうが大事で優先されるのか。

事務局 統合検討する際にどちらを優先するということは今の段階ではなく、全体を見てどういう方針で、どういう在り方がいいかというところを検討した上で、どういった学校を目指していくのか、についてはどういった統合の方針が良いか考えていく。単に人数が多いところに寄せる、通学時間が短いところに寄せるという、そういう判断は現時点ではどの委員もされていないと思う。これからそういったものをトータルで考えた上で、この後の取りまとめの際にいろんな意見をいただきたい。

委員 人数云々というのは特に関係なく、それは一つの選択肢でしかないということでしょうか。

事務局 そうなるかと思うが、人口分布の移り変わりを今後やはり検討しなければならないので、地域の皆さんと話をしながら考えていく必要がある。

④ 提言案のとりまとめの進め方について

事務局 (資料に基づき説明)

委員 説明のあった現在の学区適正化方針では、原則中学校施設の大規模改修等を行わず、既存の施設を活用することとなっている。そうすると、今の学校規模だとこのぐらいしか入らないということになり、すごく制約されてしまう。本当にそれでいいのか。

事務局 ここに添付した資料は、あくまでも令和元年に出した第2次学区適正化方針の資料である。この時点では、こういった方針を基に学校を統合するという判断をしたわけだが、今回はあくまでも見直しなので、これに必ずしも縛られるというものではない。

委員 現在の方針に沿って検討するという考えではなく、これを基本にして考えるということか。

事務局 現在の方針を基にする部分もあるだろうし、そうではなく別の方針、提言を皆さんのほうでまとめるとなるのであれば、そういったものも提言していただくことになろうかと思う。

事務局 補足させていただくが、現在の方針を反故にしてゼロからスタートするという意味ではなく、基本的な考え方はある程度は踏襲して、ある程度の規模、あるいは教育効果を見込まれて、それが再編の中で生かせるのであればそれは検討していく価値があるという意味である。また先ほど学校の大改

修を行わず既存の学校を活用するという話もあったが、そうしたところもしっかりと全体を見たところで再検討し、校舎の新たな再編が必要であれば、検討する余地があるということである。全体としては、意は酌みながら個別の細かいところは新たにまた検討したいと考えている。

委員 コロナ禍も含めてここ3年ぐらいで働き改革など大きな情勢の変化があるわけで、今子供たちをどういうふうに育てていくのか、この地域がどういうふうに育っていくのかということを考えていくことが大切だと思う。学校の統合のこの組み合わせがいいとか悪いとかではなく、地域の大人も元気になる、子供も学んで成長していく、そのためにどのような工夫ができるのかということを考えていきたいと思っている。そういった意味では、十日町市の教育大綱だけでなく、今国が目指している人材育成の方向性だとか、地方の活性化の方向性だとか、そんなことを考えながらやっていければと思っている。

委員 高校の話になるが、柏崎の中等教育学校が募集をやめ、柏崎高校に併設型の中学校を2クラス入れると、県が方針を出している。これは、併設型中学校で中高一貫教育をしないというような書き方をしているが、十日町でも同じように起こる可能性はある。そうすると、先ほどのシミュレーションとは違った動きが起きるでしょうし、そういったことも視野に入れながら、どう中学生を育てる、環境整備するということを考えていければと思う。

委員 学区外である市外、あるいは県外から入学をさせることができる条件を教えてほしい。例えばスキー留学で市内の学校に通いたいなど、どのような条件が整った場合に可能なのか。

事務局 同一市町村内から違う学区、指定のないところに行くのを学区外就学といい、市町村を超えていく場合は区域外就学という。その許可要件については教育委員会で決められており、申請があった場合は協議の上認めるという形になる。基本的に2つ以上の学校がある場合は学区の指定をすると法令で決まっている。

委員長 同一市町村内であれば特認校という形で市内のどこかからでも通えるという仕組みができています。近辺だと南魚沼市や長岡市に特認校があるが、子供の送迎は保護者がするということが前提となる。ただ、これをすると結局市内で子供たちを奪い合うような形になる。市外から来るとなると留学制度のような基本的に住所を移す形で、実態としてそこに住むという条件がないとなかなか難しい。そこまで雪国の留学で集められるかどうか分からないが、そういったところが今のところ全国的に進められている内容になる。

委員 次回からのグループワークのことで、提言依頼事項の「①学校教育のあり方」と「②学校教育に必要な環境整備について」を最初のグループワーク

で、「③中学校の適正配置」と「④再編に伴う留意事項及び対策について」を2回目のグループワークでという話があったが、これまでの委員会で繰り返されているのは、どんな規模の学校であるかによってどんな教育ができるかという話をされていることが多い。なので、①教育のあり方についてだけ先に話をし、それから③のどんな中学校を配置するかという話に持っていくという流れではまた話が元に戻ってしまうような形になりかねないと思う。規模も含めてこんな学校をつくるのであれば、こんな教育ができるという形の話合いのほうが良いのではないか。少なくとも②に含まれる教職員体制は、③の適正な配置や再編のことがはっきりしてこないと語るができないと思う。

委員長 当面①、②のものを出しながらそこで話をする中で、皆さんのご関心のあ
る部分、そのところを含めながら、今委員が言われたように既にある程度
は意見が出ている部分があるので、話の進みぐあいによってそこは自然に
入っていくのではないかと考えている。

(3) その他

① 次回会議の開催日・内容について

日程調整表の提出を依頼。後日、次回日程をお知らせする。

② その他

なし

(4) 閉 会